

井手訶六 かろく 小説家。明治二十一年六月、二十日岡山縣倉敷生れ、昭和二年二月二十九日歿（八六一―九二八）。金光中學校を病を獲て中退。療養の傍ら小説を志し、大正八年可大阪朝日新聞に懸賞小説の「落日讃」を以て応募。選外佳作となるも審査の當つた幸田露伴の好評を得た。十年再度応募した。可新しき生へ全二冊（上巻・大正十一年七月一日、下巻・八月一日大阪・朝日新聞社。改装全二冊・昭和二年十月十五日大阪・盛文館書店）が一等賞選して本紙に連載。その後朝日「十炬ぎ」懸け人々」、十五年雑誌「主婦之友」の「十字路の乙女」を發表したが、早逝。

